

令和5（2023）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）

種名	アカヤガラ	対象水域	日本海西・東シナ海
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、山口県水産研究センター、佐賀県玄海水産振興センター、熊本県水産研究センター		

1. 調査の概要

水研機構は、調査指針を作成した。

熊本県、山口県、佐賀県および水研機構は、主要港または主要市場の水揚量、および以西底びき網の漁獲成績報告書を集計し漁獲状況を把握した。

山口県は全長、体長等について精密測定を実施し、漁獲物の体長組成を明らかにした。熊本県では市場で全長、尾叉長測定を実施した。水研機構は、長崎漁港に水揚げされたアカヤガラ55個体について精密測定を実施し、生物特性把握のための標本を収集した。

熊本県、水研機構は、調査報告書を取りまとめた。

2. 漁業の概要

日本海西・東シナ海における漁獲量（熊本県～山口県各県の主要港・市場の合計）は関係4系統のデータが得られている2012年以降では年間3～15トンの間で変動している。県別には2018年頃までは熊本県の漁獲量が多かったが、近年は山口県や以西底びき網漁業での漁獲量が増加している（図1、表1）。月別にみると、熊本県ではアカヤガラの漁獲の大部分を占める手操第1種漁業（底びき網）の許可期間である10月～翌年5月に漁獲量が多く、11～12月と3～5月の2つの山が見られる。山口県と佐賀県では、6月以降漁獲量が増加し、10～12月に多い（図2）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：沿岸から沖合の200m以浅に生息し、北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海、屋久島、沖永良部島、沖縄島、南大東島、小笠原諸島、硫黄島、濟州島、台湾、南沙群島、インド洋から西太平洋、ハワイ諸島および大西洋に分布（中坊（編）2013）。
- (2) 年齢・成長：情報なし。全長1.5mに達する（益田（編）1984）。
- (3) 成熟・産卵：益田（編）（1984）には、産卵期は冬の記載があるが、下瀬ほか（2023）により九州西方沖における産卵期は、5～9月を主とする4～10月であることが報告された。
- (4) 被捕食関係：山口県の調査では、マアジ、イワシ類、イカ類など小型魚介類を捕食していることを確認。

4. 資源状態

資源水準を判断できる長期漁獲量や資源量指標値が得られていないため、資源水準は不明である。2012年以降の各県および以西底びき網漁業の漁獲量集計によると、漁獲量は2014年の15トン进行ピークとして、減少に転じ2018年に6トンまで減少した。その後再び増加し2020年の11トン进行ピークとして、2022年には以西底びき網漁業を除いた3県合計ではあるが、2018年以来の4トン程度に留まった。3県合計の直近5年間（2018～2022年）の漁獲量は増加後減少と変動はあるが概ね横ばいとみなせるため、資源動向は横ばいと判断した。

5. その他

浅海域において混獲される魚種で重要魚種ではないため、資源回復の取組みは行われていない。資源評価を行うためには、生物情報や漁獲情報のさらなる収集に努める必要がある。

6. 引用文献

- 中坊徹次（編）（2013）日本産魚類検索 全種の同定 第3版，東海大学出版会
益田 一（編）（1984）日本産魚類大図鑑《解説》，東海大学出版会
下瀬 環・五味伸太郎・増渕隆仁・酒井 猛（2023）九州西方沖におけるアカヤガラの成熟と産卵，令和5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集，22

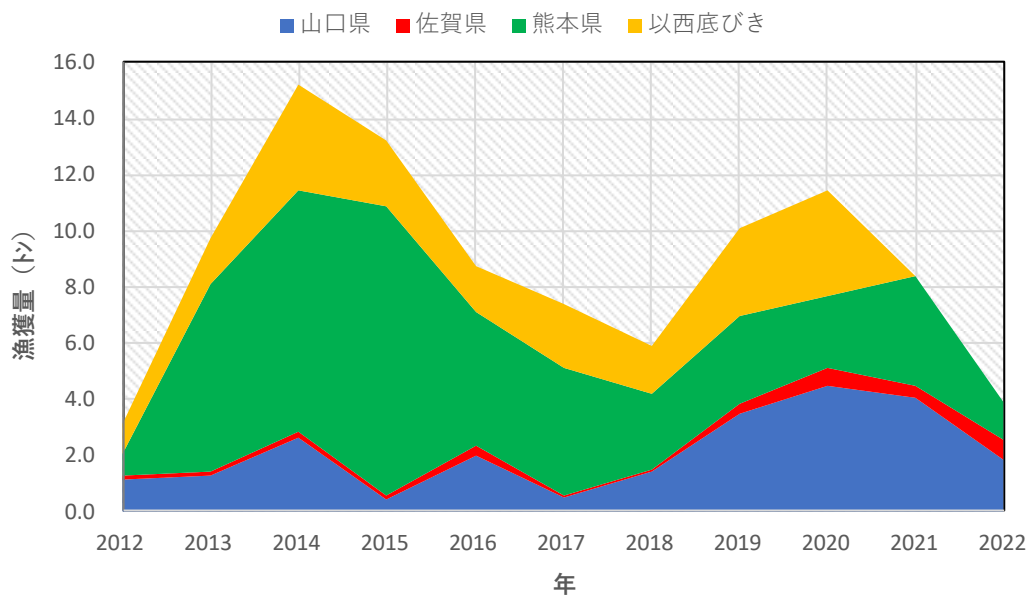


図1. アカヤガラの県別および以西底びき網漁業による漁獲量

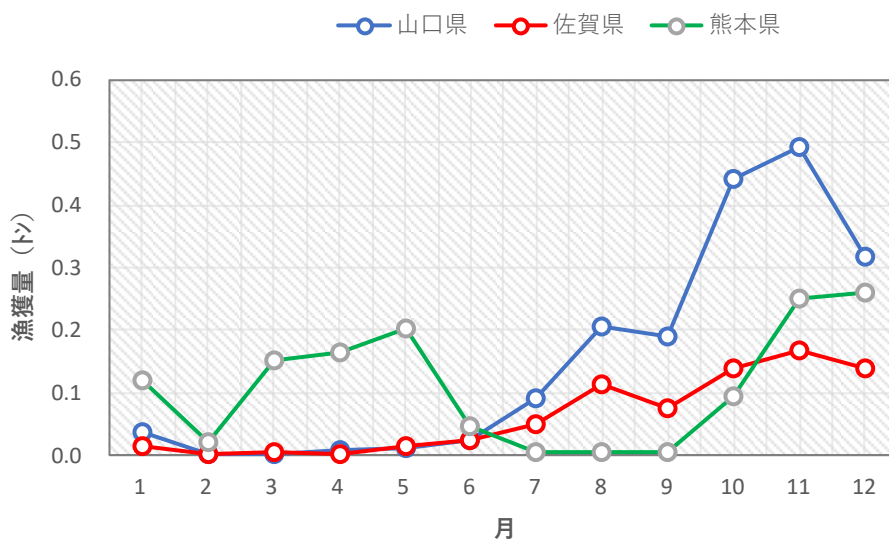


図2. 2022年アカヤガラの月別県別漁獲量

表 1. アカヤガラの県別および以西底びき網漁業の漁獲量

年	漁獲量(kg)				合計
	山口県	佐賀県	熊本県	以西底びき	
2012	1,151.0	111.6	772.7	1,048.0	3,083.3
2013	1,290.0	85.0	6,746.2	1,595.0	9,716.2
2014	2,648.0	210.0	8,596.9	3,759.0	15,213.9
2015	424.6	147.0	10,324.9	2,333.0	13,229.5
2016	2,001.0	297.5	4,796.5	1,639.0	8,734.0
2017	495.0	45.5	4,553.1	2,288.0	7,381.6
2018	1,419.0	80.5	2,671.7	1,709.0	5,880.2
2019	3,481.5	364.0	3,080.4	3,138.0	10,063.9
2020	4,450.5	672.0	2,537.6	3,754.0	11,414.1
2021	4,031.0	420.0	3,937.8	3,568.0	11,956.8
2022	1,820.5	738.5	1,323.6	4,288.0	8,170.6

山口県は代表 2 市場の漁獲量。

佐賀県は代表 1 市場の漁獲量だが、「ヤガラ類」をすべて含む。

熊本県は代表 1 漁協の漁獲量。